

弥生式古墳跡

夫婦池南の城跡付近から弥生時代の壺棺と思われる土器が出土している。

口縁部は破損していたが、頸部には三条・腹部には二条の凸帯をめぐらし、表面は刷毛で整えられ腹部の下には、焼成後に開けたと思われる穴が開いていたといわれている。



お茶屋跡

徳山公園より西一ノ井手に通じる市道北側の金剛山ふもとに、公園のように広い土地に、凝翠亭という茶屋風の家があった。

春秋の好季節に殿様が家臣を召されて園遊会を開き、芝居などの催しもしていたといわれる。

旧藩作事方跡・武方跡

桜並木の西側にあった作事方は、藩邸などの建築や、修理工事を行い、東側にあった武方は、甲冑・刀・弓・鉄砲などの武具を製造管理していた。この辺り一帯は、藩の仕事をする重要な機関があった所である。



番所跡

上一ノ井手（小城戸）の興元寺裏車道入口（旧海軍燃料廠貯水池番人宿舎）辺りに番所があったといわれている。

ここは、栄谷・須々万・長穂に通じる山道と、鉢窪に至る小さな溪流に沿ってある、松ヶ甲・滑・譲羽に通じる山道との、分岐点に当たるので、戦国時代に要害の地として番所が設けられたものと思われる。溪流のあるえきを、番所のえきと言っていた。